

## 平成 20 年度 JAXA 学校宇宙連詩への取り組みの報告

|                 |  |          |   |
|-----------------|--|----------|---|
| 学校名             | 神奈川県立<br>平塚盲学校   | 校長名      | 村瀬道雄  |
| 学校<br>所在地<br>住所 | 〒254 - 0047<br>神奈川県平塚市追分10番1号<br><a href="http://www.hiratsuka-sb.pen-kanagawa.ed.jp">http://www.hiratsuka-sb.pen-kanagawa.ed.jp</a>   |          |   |
| 参加者             | 神奈川県立<br>平塚盲学校<br>小学部2年生1名<br>" 3年生2名<br><br>聖ステパノ学園<br>小学校3年生8名<br><br>その他地域の小学校<br>在籍の視覚障害児<br>5名<br>計16名  | 指導<br>教諭 | 神奈川県立<br>平塚盲学校<br>教諭 野毛美穂<br>教諭 玉腰美貴子<br><br>聖ステパノ学園<br>教諭 池田太理 |
| 参加<br>目的        | <p>本校は、神奈川県で唯一の盲学校として視覚障害児・生徒一人ひとりの教育的ニーズに合わせた教育を行うことを教育目標に掲げ、あらゆる教育活動を通し、一人ひとりに応じた生きる力を育み、人間力を高めることを目指しています。また、在籍児・生徒のみならず視覚障害教育のセンターとして地域の視覚に障害のある人たちを支援し、地域でともに生きる社会を実現するために支援教育の充実を教育理念としています。</p> <p>宇宙連詩作りをとおして、視覚障害のある児童が「一人の人間として命や自然」を意識し、「ともに生きる力や楽しさ」「将来の自分への励まし」の機会になることを期待して参加しました。</p> |          |   |
| 指導<br>目標        | <p>目標1：宇宙の中で生きる自分が考えたこと・感じたことを自然な言葉で表現する楽しさを味わう。</p> <p>目標2：視覚障害児には捉えにくい星座や月を平塚市博物館の特別映写で体感するとともに宇宙について関心を高める（平塚市博物館に協力依頼）</p> <p>目標3：宇宙連詩の合同学習会や発表会を通し大勢の友だちと一つのこ</p>   |          |   |

|  |  |
|--|--|
|  | <p>とに取り組む楽しさや達成感を味わう。</p> <p>目標 4 : 宇宙のレクチャーを通し、宇宙や JAXA の活動を知るとともに将来の学びの機会とする。(平塚市博物館および JAXA 職員に協力依頼)</p>  |
| <b>具体的な取り組み内容</b>                                  |  |
| <b>実施段階<br/>実施時期</b>                               | <b>取組内容</b>  |
| <b>準備段階</b><br>10月～                                | <p>JAXA 職員および平塚博物館職員と本校関係者との意見交換会を開催し、参加児童の決定、指導計画の作成と準備を、本校指導教諭が JAXA および平塚市博物館の協力を得て進めた。</p>   |
| <b>導入段階</b><br>10月<br>～ 11月                        | <p>指導目標 1 への取り組み</p> <p>授業や教育相談の機会を通し、前年の連詩を朗読したりして宇宙連詩のイメージづくりを図るとともに、各自の宇宙連詩へのアプローチを支援した。</p>  |
| <b>実施段階 1</b><br>10月末<br>～ 12月中旬                   | <p>指導目標 1 への取り組み (11月～12月)</p> <p>詩作りの心構えを確認し、詩の原案を作成したり、宿題として連詩づくりを行った。</p> <p>指導目標 2 への取り組み (10月30日)</p> <p>平塚博物館に協力を依頼し、視覚障害児の保有視力で確認できるよう配慮したプラネタリウムの特別映写を実施していただいた。また、全盲児には触察教材を用意するとともに理解しやすく楽しい説明を工夫していただいた。</p>  |
| <b>実施段階 2</b><br>12月12日<br>合同学習会<br>2月20日<br>合同発表会 | <p>指導目標 3 への取り組み</p> <p>合同学習会を実施し、普段は別々の場で学習している児童が一堂に会し、友だちとの息づかいを感じながら自分の詩を発表するとともに友だちの詩を共に味わう。</p> <p>詩の表現を体得させることを目的に、完成した宇宙連詩を順番に朗読する活動を実施した。平塚市博物館では、JAXA 職員や平塚市博物館職員および保護者を前に、完成した作品を朗読した(その日プラネタリウムでコンサートを予定していた音楽家の方々のご協力を得、発表会では宇宙に関係した楽曲を演奏していただいた)</p> |

## 社会との繋がり

宇宙連詩発表会では、神奈川新聞、毎日新聞、読売新聞、地元メディア（湘南ホーム  
ジャーナル、湘南新聞）が取材し、レクチャーの様子が報道された。また、点字毎日にも  
記事が掲載された

平塚市博物館のホームページに宇宙連詩が掲載された。

年頭の平塚市長の会見で宇宙連詩の取り組みが「宇宙天文年」の平塚市博物館の  
取り組みの一環として紹介された。

宇宙連詩の記事を読んだ地域の方から「日本宇宙少年団」の紹介とともに激励のお手  
紙をいただいた。

平成 20 年度 JAXA 学校宇宙連詩への取り組みの報告  
指導教諭からの報告

宇宙連詩「青空の下のわたしたち」に取り組んで

神奈川県立平塚盲学校 教諭 玉腰美貴子

今回、平塚市博物館からのお誘いで JAXA の学校宇宙連詩に取り組みました。

盲学校としての参加は世界初とのお話を伺い、あらためて意義深い挑戦だったと思っています。

この取り組みには JAXA をはじめ、平塚市博物館、盲学校の呼びかけに応じ参加してくれた教育相談の子どもたちや保護者の方々、聖ステパノ学園など多くの方々の協力が得られたからこそ成し遂げることができたことと感謝しています。

打診を受けたときは、視覚に障害がある、しかも小学 3 年生が多数をしめるこの集団で、果たして宇宙連詩を作成できるのだろうかとためらいました。

しかし、「子どもたちから出る自然の言葉すべてが宇宙に繋がっている」との JAXA の山中さんの説明を受け、教育相談に来校した子どもたちに宇宙連詩のことを話すと「やってみたい！」と意欲満々で、その場で詩を作る児童の様子を見て連詩づくりに取り組むことにしました。

作成の過程では宇宙の事を調べたりするなど子どもたちそれぞれに関心が高まっていきました。いくつもいくつも詩をつくってくる児童もいました。子どもたちが宇宙や地球にとっても関心があることへの気づき、また連詩づくりを楽しむ様子に励まされました。

連詩づくりの合同学習会や発表会ではいつもそれぞれの教育の場で学習している子どもたちが一堂に会しました。連詩作りやレクチャーをとおし、大勢のお友だちの声を聞き合い、お互いの存在を意識し楽しむ姿が印象的でした。

発表会での JAXA の山中さんのレクチャーでは星のシールを貼った風船を宇宙に見立て、「宇宙が膨らむと銀河と銀河の距離が離れる様子」や地球と月の同じ割合の縮尺のモールを両手にのせ、「その手を横に広げると地球と月の距離になること、もし歩いたらどのくらいになるか」など具体物を触りながら、分かりやすく楽しいお話をしていただきました。

16 名で作成した 32 の宇宙連詩は盲学校ならではの味わいのある宇宙連詩になったのではないのでしょうか。発表会をおこなったの反響も大きく、「一生、わたしの詩が残る」と喜ぶ姿に、私たち指導教員が願った「将来の学びのきっかけ」としても「子どもたちへの勇気と希望のエネルギー」としても宇宙連詩取り組みの目標に近づいたと実感しています。

クラスで最初に連詩の話をした時、どんな言葉が返ってくるだろうとときどきしていました。視覚に障害があり、夜空に浮かぶ星を見たことがない子どもたちでしたが、今まで本やテレビで見たこと、聞いたことを話してくれました。

さらにイメージをふくらませてほしいと思い、平塚博物館の澤村さんにご協力いただきました。視覚に障害を持つ児童にとって、わかりやすい特別映写をお願いしました。弱視児に単眼鏡で星を捉えさせるため何回も打ち合わせを重ねました。ポインターの大きさや向かう方向、動かす速度など、細かなことを一つ一つ確認しあい、いかに子どもたちが見たり感じたりできるかに心を砕きました。教材も弱視児にも全盲児にも分かりやすく工夫しました。立体コピーやシールを使用したり、白黒反転の月の満ち欠けの図も用意しました。子どもたちが「見えた！」と喜んだ姿は今も鮮明です。

また、全盲の児童が弱視の児童につられ、月の話をした時、表面的な知識だけでなく宇宙や自然を肌で感じてほしいと思いました。国語で出てきた『青空』をイメージしてほしいとき、雲ひとつないぼかぼか陽気の日なたに行きました。その暖かな日なたでは、見えている私たちでは到底思いつかない、とても素直な言葉が飛び出してきました。感じたこと、経験したことを自分の言葉として素直に表現してくれたとき、驚きとうれしさでいっぱいになりました。

また、普段少人数で学習している盲学校の児童にとって、地域に通う同じ障害を持つ仲間と協同できたことも大きな財産となりました。

連詩作りに取り組み、子どもたちがこんなにも宇宙、そして私たちの地球に興味・関心を持っているという素敵な発見をさせていただきました。どうもありがとうございました。

聖ステパノ学園3年生の子どもたちは全部で8人、皆おとなしく、校外学習などに行っても、発表や質問をすることなく、淡々と活動をこなしていることがほとんどで、学園の中だけが自分たちの「思い」を素直に表現できる唯一の場所でした。その子どもたちが、はたして学園を飛び出し、《宇宙連詩》という壮大なプロジェクトに参加できるだろうかという大きな不安が私にはありました。

そんなとき「子どもたちの思いをそのままに詩にしてあげればいいのですよ」というJAXAの山中さんの言葉を聞き、私はそれまでの不安をいっきに吹き飛ばし、子どもたちもまた自分たちの「思い」を、自信を持って詩に込めていくことができるようになりました。

私たちの学園には個性溢れる子どもたちが通っています。その子たちが、今回の《宇宙連詩》作りを通して一つになり、お互いがお互いのそのままの姿を認め合い、自分の素直な「思い」を友だち同士がつけることができるようになりました。そして、ついに流れ星が流れるように繋がる素晴らしい連詩ができあがりました。

今後、私たちの作った《宇宙連詩》が国際宇宙ステーションで宇宙を飛び続けるように、子どもたちも、これから社会で「きぼう」を持って、羽ばたき続けてくれることとっております。

そして、この素晴らしい機会を与えてくださった関係者の方々に、私も、子どもたちも本当に感謝しております。



別紙 3

平成 20 年度 JAXA 学校宇宙連詩への取り組みの報告  
参加者からの報告

感想 1 (平塚盲学校 小学部 3 年生)

プラネタリウムは家で行ったことがありました。でも、暗いだけで何もみえませんでした。平塚市博物館でプラネタリウムをみたときは、単眼鏡で月を見つけ「あっ、見えた」と大きな声を出してしまいました。

宇宙ステーション「きぼう」のことはテレビで知っていました。わたしたちが作った宇宙連詩がロケットで宇宙の「きぼう」に行くって聞いてびっくりしました。「すごい!!」としか言いようがないです。わたしの詩がわたしのことをずーっと見ていてくれるなんて……。わたしのじまんです。

感想 2 (地域の小学校 4 年生)

宇宙連詩を作って今まで以上に宇宙のことが知りたくなりました。今まで知らなかったジャクサの事も知ることができました。

宇宙連詩をつくるまでは、自分一人で作っておしまいだった事も宇宙連詩をつくったことで、一生宇宙に残るのだと分かったら参加して良かったと思いました。

これからも宇宙のいろいろな事について調べてみたいと思っています。

感想 3 (地域の小学校 6 年生)

宇宙連詩をつくっていくうちに、宇宙にますます興味を持つようになりました。宇宙連詩の合同発表会で博物館に行ったとき、星の本を買いました。星座の本です。図があって説明文も分かりやすかったです。

合同発表会の時の山中さんの「宇宙が広がっている」の説明では風船を使って宇宙が広がるにつれて星が動くのです。宇宙が広がるのは知っていましたが、星が動くまでは、知りませんでした。特に良かったのは感覚で分かるように立体の星のシールを付けて説明をしてくれたことです。そうすることによって星と星の間に指が入らなかったのが、だんだん入ってきたりしてとても分かりやすかったです。

感想 4 (地域の小学校 6 年生) 点字を墨訳しました。

宇宙連詩は自分のイメージしたことを詩にしました。自分の詩を発表するときはちょっと緊張しましたが、自分の詩を聞いてもらったり、お友だちの詩を聞いて良かったです、自分と同じ考えの人がいることや自分とは違う考えや詩も聞いて楽しかったです。

JAXA 山中さんのお話が分かりやすくておもしろくて良かったです。風船やモールを使って星と星との距離を正確に分かりやすく教えてもらったのでおもしろかったです。

また、いろいろ教えてもらいたいです。

#### 感想 5（地域の小学校の保護者）

「詩なんて考えられるかなあ!？」と言っていた娘が一生懸命取り組んでいた姿を見、参加できた事に感謝しております。

娘は以前から宇宙に関し興味があり、夏休みの自由研究でも宇宙について調べておりましたが、連詩の経験後は NASA のスペースシャトル打ち上げのニュースなどにも耳を傾け、以前にも増して宇宙に興味がでてきたようです。

普段の生活の中で考えてもみなかった宇宙連詩を経験させて頂き、とても感謝しております。

#### 感想 6（地域の小学校の保護者）

我が子は以前から宇宙には興味がありました。弱視なので、普段は月ぐらいしか見えないのですが、色々な星座や天の川にはイメージをふくらませていたようです。

今回、博物館で星が見つかるまでじっくり見せていただいた事、山中さんのレクチャーで月の模型を触らせていただいた事（地球のように山や海があるのが良くわかりました）体を通して宇宙を感じることができたと思います。

息子は天の川の星一つ一つを自分と自分のまわりのたくさんの人に例えて詩を作ったそうです。「宇宙の広がり」と命のつながりを感じてくれたかなと思います。ありがとうございました。



### JAXA アンケートへのご協力をお願い

Q1 宇宙連詩に参加する「以前」に、「JAXA」や「きぼう」を知っていましたか？たとえば、「私は、JAXAの です」とか、「私は、『きぼう』に関係した仕事をしています」と言われたとき、ピンとききましたか？

「はい」と答えた方 8名(16名中)

Q2 宇宙連詩に参加して、JAXA や「きぼう」が、身近に感じられるようになりましたか？

「はい」と答えた方 15名(16名中)

Q3 来年も、みんなで宇宙連詩を作りたいですか？

「はい」と答えた方 16名(16名中)

Q4 その理由は何ですか？(箇条書きで結構です。)

- ・ また、違う詩を作れば、もっといい詩が作れるとおもうから。
- ・ みんなで作って楽しかったから。
- ・ みんなの詩を聞いたのも良かった。
- ・ 詩や文章を作るのがすき。違うお友だちとも作ってみたい。みんなで詩を作ると発想が広がる(今年、東京の盲学校に入学しました)
- ・ もう一度、新しい詩を作りたい。
- ・ 自分の詩が一生残ることが嬉しい。
- ・ 詩を作るのは自分の思ったことを書けるから。
- ・ お友だちの詩を聞いて「こんな風に思ったんだ」と思った。自分のもいいけど人のも良いと思った。
- ・ 大勢の前で発表できてうれしかった。
- ・ 一度、作ってみて楽しかったから、また作りたい。
- ・ これからもどんどん宇宙のことを勉強したいから作りたい。
- ・ 発表する時、緊張したけど、もう一回、平塚盲学校のお友だちと一緒に詩を作って発表していから。
- ・ 学校で詩を読み、天体のことも好きだから、またやってみたい。